

科目名	専門演習Ⅱ Seminar II						
科目担当者	今枝 昌浩 IMAEDA Masahiro						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	これまで日本国憲法に関して最高裁判所が下した判断を中心として、各担当者（原則2人1組）が事前に準備したレジュメに基づいて報告し、それを題材としたディベートを行う。裁判における当事者の主張の応報を体験することで、憲法の考え方とともに法的思考を実践する。						
授業の到達目標	①担当者間で協力し、事前準備および報告を完遂する。 ②自ら選択した判例について、関連する裁判例や学術文献をリサーチした上で、その内容および意義を正確に説明することができる。 ③自身の担当以外のテーマについても議論に参加することができる。						
授業計画・内容	1	オリエンテーションおよび報告担当決め			16	津地鎮祭事件・那覇孔子廟事件	
	2	(続) 報告担当決め・模範報告			17	札幌税関事件	
	3	マクリーン事件判決			18	北方ジャーナル事件	
	4	東京都管理職試験受験拒否事件			19	月刊ペン事件・ラーメンフランチャイズ事件	
	5	八幡製鉄政治献金事件判決			20	メイプルソープ事件	
	6	三菱樹脂事件判決			21	外務省機密漏洩事件	
	7	京都府学連事件			22	泉佐野市民会館事件・金沢市庁舎前集会事件	
	8	尊属殺人重罰規定事件			23	小売市場判決・薬事法違憲判決	
	9	婚外子相続分差別事件決定			24	森林法判決	
	10	再婚禁止期間事件			25	朝日訴訟・堀木訴訟	
	11	夫婦同氏事件			26	旭川学力テスト事件	
	12	国籍法違憲判決			27	堀越事件・宇治橋事件・猿払事件	
	13	国旗・国歌訴訟			28	投票価値訴訟	
	14	南九州税理士会事件			29	在外邦人選挙権事件	
	15	神戸高専事件			30	在外邦人国民審査権事件	
授業外学修 (事前学修)	報告担当者は報告準備を進め、担当者以外は事前に配布されるレジュメに目を通し、関連する論点について各自で予め調べておく（毎週2時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	授業で受けた指摘や助言を踏まえて、次回の報告に役立てる（毎週2時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	報告（準備）および質疑応答への参加を総合的に評価する。					100%	①、②、③
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	各自の選択テーマに合わせて適宜指示・助言する。						
参考文献	各自の選択テーマに合わせて適宜指示・助言する。						
その他	報告担当者は原則として2人1組とする予定ですが、進め方および詳細については授業内で調整します。また、新たに注目すべき憲法判断が下された場合は、上記以外の裁判例を選択しても構わない。						